フィールド（現場）からの風 641

宮田守男

昨日は24節気では「春分」の日で本格的な春の到来の時期だったが、春の訪れを感じるのはスギ花粉の漂いだけだ。鈴木牧之の江戸時代後期の越後の自然と生活を描写した書物「北越雪譜」に、固まった雪に亀裂が入る際には大木を折るような音が響く、これが雪崩の兆しであるとの記述がある。特に今年は雪崩が多発するとの情報があり、スキーゲレンデは土砂流れの発生を想像させる箇所が見え、災害の無い様に願ってしまう。

山腹には大量の積雪があり土砂崩れの土砂が農業用水路に流れ込む事が心配され、山腹の導水路の雪解けが進まなければ、「水田への水確保が可能なのか悩む」との声が伝わってくる。

先週行われた備蓄米放出でも秋の新米流通まで十分な流通量は確保できないのではとの予測から、作付けもされていないコメを買い求めているとの情報が。江藤農林水産大臣の「コメの生産は今でも自由」の発言は、水田に水稲以外の作物を作付けていた農家に大きな不信感を抱かせたに違いない。

農業の現状課題は深刻だ

また2030年のコメ輸出を現状の約8倍へ大幅に引き上げる方針を示したが、今回のコメ騒動は農業支援の実態を多くの国民に周知させた。トランプ大統領がコメに関する関税を問題視する事も心配される。農家を守るためにも国産のコメを食べていただきたいのが前提だが、業務用では海外産のコメが活用されていく可能性は広がるだろう。農業を取り巻く情勢は楽観視できないことは明白だ。大規模経営でしか営農できないのであれば、地域での農業従事者は限られ、営農をできない地域住民を地域の中で生活し続ける為に何をすべきか考えなくてはと思うべきだ。

外国人が地域の土地を取得して、訪日客を対象にする営業地にはなってはならない。

イソップ寓話集の「かべとクギ」の話に、かべがクギにひどいことをされ、こう言いました。「なにもわるいことをしないのに、なんだってわたしをさすのだ」。するとクギはいいました。「わたしのせいではないよ。うしろからつよくわたしをたたく人間のせいだ」と。私たちを守る壁に海外の強靭なクギが刺さり続ける事を避けることはできない。その事を自覚する時代に私達は生きているのだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

白馬樅の木レストランに地酒を誘う展示物。食事会も日本酒がメインに